

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 17日から18日にかけて、高気圧が東日本付近から日本の東へ移動する。
- 18日から20日にかけて、低気圧が発達しながら日本海北部からカムチャツカの東へ進む。
- 19日から21日にかけて、大陸の高気圧が日本海付近に張り出す。
- 20日から21日にかけて、前線が日本の南から日本の東に停滞し次第に北上する。

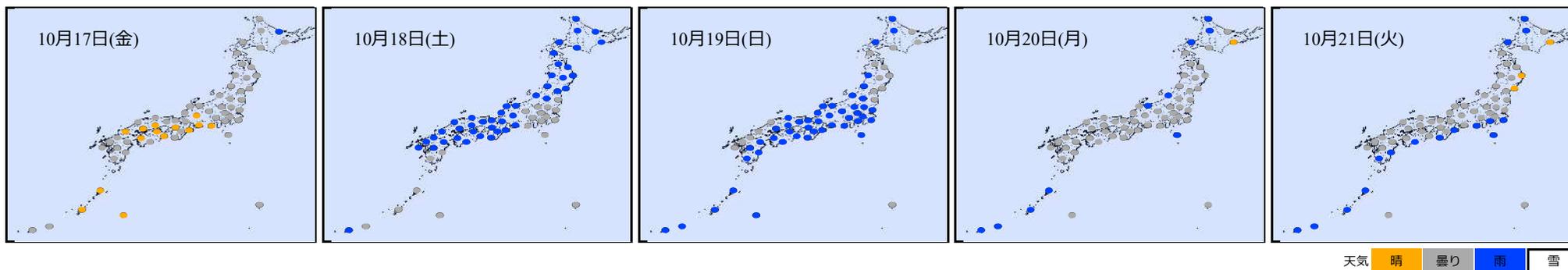
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日から19日頃は、北日本では低気圧の発達によっては、大荒れや大しけとなり、警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

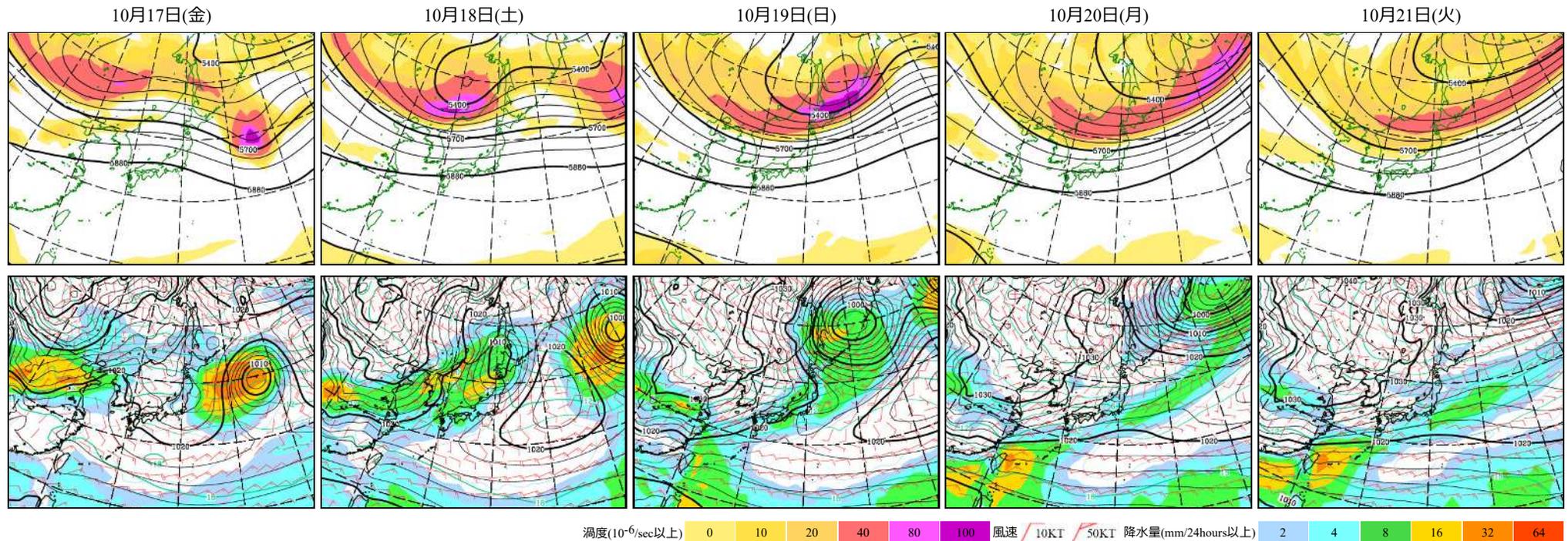
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

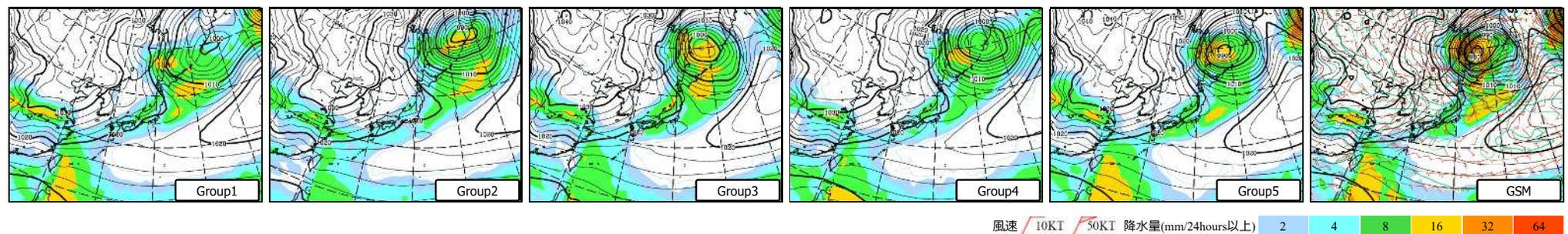


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、太平洋側では晴れる所がある。
- 東日本、西日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、17日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、17日に東日本付近に移動する高気圧が強まった。18日から19日にかけて日本海から千島近海へ進む低気圧の東進が遅くなり発達する傾向となった。
- 19日までは500hPaの流れは各モデルとも概ね一致しているが、その後はトラフの深さなどにバラツキが見られる。
- スプレッドは比較的小さく、特定高度線のバラつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。